

令和7年度

千早赤阪村立学校

評価報告書

学校名（千早赤阪村立中学校）

校長名（ 蔦 亜紀朗 ）

1. 教育目標

『たしかな学力をつける ゆたかな心を養う すこやかな体を育てる』

めざす学校像

豊かな自然と少人数指導でのびのびと過ごせる学校

めざす生徒像

思いやりの心を持ち、探求心と表現する意欲のある生徒

めざす教師像

生徒とふれあい、前向きで健全に生徒を導く教師

2. 経営方針

本年度重点目標（昨年度の成果を生かしながら、「丁寧」を心がけ、引き続き取り組みを進める。）

「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」

・学校教育アンケートでは、「授業がわかりやすい」という項目の評価には課題があるが、「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業が多い」、「授業で、教え方に工夫をしている先生が多い」については改善が見られる。引き続き、生徒自らが学びに向かい学力を高める「わかりやすい授業」づくりに取り組む。そのため、千赤スタンダードの徹底と、授業時に「めあて」の共有と「ふりかえり」活動の設定をおこなう。

・「わかりやすい」については、支援教育的視点もふまえてユニバーサルデザインに基づいた授業づくりも意識する。

「生徒が自分自身を見つめながら道徳的価値を高めていく授業をつくる」

・今年度、大阪府中学校道徳教育研究会の地域での大会開催を予定しており、研修機会を生かして、以前より学校全体で取り組んできた道徳教育を充実させていく。

・本校の生徒はしっかり考える力がある。多面的多角的に考えることで自らの考えを深め、自信をもって伝えることができる授業づくりをめざす。

「関係機関や地域との連携強化を模索し開かれた学校づくりをすすめる」

・学習環境、生徒へのサポート体制の充実につながる授業参画へのご協力を依頼する。

・さまざまな課題に対し、外部機関や専門家等との組織連携による効果的な取り組みをおこなう。

・働き方改革にもつながる、外部からの学校支援について方策を検討していく。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・KGG プリントの活用をより一層進めることで、家庭学習の定着を始める第一歩となるよう計画する。また、各授業における、知識・技能の定着により、発展した思考・判断・表現の力を伸ばしていくよう、教員の授業力の向上を目指す。 ・L(聞く)、S(話す)、R(読む)、W(書く)のそれぞれの技能を育むため、生徒の興味・関心を引く活動を積極的に取り入れる。ALTとの連携を通して、新しい文化、価値観などに触れられるような機会を設ける。 ・情報の扱い方や処理の方法、機器の扱い方などを、社会を生き抜く力として身につけることができるよう発信し、自立的に課題解決や創造的な活動ができる能力の向上を目指す。 ・一人ひとりの特性に応じた課題への対処や支援の充実を図るために、情報交換を密にし、一人ひとりに合った支援を、全体で考えていく。そのために、専門性の向上を目指し、家庭や地域、各関係機関との連携を深める、また、研修等の実施も考え、より一層の向上を目指す。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題を取り入れた、生徒の興味・関心を引くコミュニケーション活動を行う。クラスルームイングリッシュを取り入れて、英語の使用場面を増やす。ALTとの授業では、教師も生徒も英語使用率が100%になるような仕組み作りを意識する。ALTの文化について、英語で説明、聞き取り。ALTから見た日本と海外の違いを題材にした授業作り。 ・すべての教職員がICTの基礎的な知識を持ち、学校生活全体を通して必要な場面で生徒に発信していく。また、ICT機器を積極的に活用できるよう提案していく。 ・支援教育推進委員会で、一人ひとりの現状や課題の共有や今後の方針の決定していく。自立活動やSSTを積極的に取り入れる。家庭や地域、各関係機関との連携の強化。小学校から中学校へのスムーズな支援移行のための連携強化。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションでは、英語での積極的な発言、生徒間の活発なコミュニケーションが見られた。また、英語だけ使うように声掛けをこまめに行うと、生徒の英語使用頻度が増した。オールイングリッシュの授業でも、シンプルな英語やジェスチャーを用いて生徒の理解を促すことができた。ALTの教材には興味を持って取り組む様子であった。自分を表現する活動をさらに取り入れてきたい。 ・機器の問題により授業などでICTを一斉に使う場面は多く設けることができなかったが、学校行事や特別活動などにおいてはICT機器を積極的に活用し、課題解決や創造的な活動ができた。 ・一人ひとりの課題に沿った学習などを、本人や保護者の意向も確認しつつ、実施することができた。支援を要する生徒の配慮事項を学校全体で共有することができ、環境調整を行った。昨年より一人一人に必要な支援(自立活動やSSTなど)を実施することで、コミュニケーション能力の向上や発達を促すことができた。保健センターやデイサービスなどの地域、小学校との情報交換を通じ、連携をより深めることができた。来年度、さらに支援を必要とする生徒が増える見込みであり、現状では対応しきれないことが多くなると予想されるので、環境調整や合理的配慮への対応方法、支援体制について、大きく見直す必要があると考える。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現を評価する機会を増やす。(各学期で必ず行いたい。)JETもオールイングリッシュの授業を増やし、生徒の英語使用を促すことで、英語に触れる機会をより一層増やす。 ・次年度は生徒用端末が新しいものにも変わることもあり、機器的な問題は解決される見通しである。その上で、家庭などよりICT機器を活用できる場面を増やし、情報活用能力の涵養を目指す。 ・自立活動や学習方法など専門性の向上を目指し、家庭や地域、各関係機関との連携を一層深める。個別に必要な支援と合理的配慮への対応方法、支援体制についての検討が必要と考える。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		II 豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力向上のため、デンマーク体操を年間通して行う。スポーツテストの結果で検証する。 ・生徒たちがともに学び、自身の道徳観を見つめる授業となるよう、道徳の学習法を研究し、外部から講師を招き、研修する。 ・昨年までで、本校の人権学習プランが定着した。そのうえで、それぞれの人権学習がより一層生徒にとっての学びが深まるよう。外部講師を活用しながら、改善を進める。 ・教科担当・栄養教諭・地域の方と連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れる。 ・キャリアパスポートを活用して自己を見つめるとともに、継続的に進路学習を行って計画的に卒業後の進路や将来に向けて考える機会を持ち、自己実現につなげる。 ・教科や分掌と連携をはかり、生徒が自分たちの住む村に関心を持ち、郷土に誇りをもつことのできる内容を教育課程に盛り込むことができるよう、検討・提案を行う。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力向上のためデンマーク体操を年間(夏季を除く)継続して実施する。スポーツテストの実施(5月)。 ・1年を通し大阪大谷大学の岩井特任教授を招聘し、道徳の学習法について全職員で研修を行い、授業改善を目指した。 ・教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習を行った。美術科の授業としての茶道体験では、栄養教諭も関わり授業を充実させた。 ・各学年、年5回キャリアパスポートを記入した。また学年の発達段階や生徒のようすに合わせた進路学習を、学年ごとに計画して取り組んだ。職業体験などの実際の仕事に触れる活動も行った。 ・道徳の「郷土愛」の教材で千早赤阪村について触れたほか、給食センターや地域人材に協力いただいて実施したみそづくり体験(家庭科)や地域の祭りを調べたりや地域の風景を描く活動(美術科)を実施した。社会科や理科でも教育課程内で千早赤阪村に触れる学習に取り組んだ。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマーク体操を年間(夏季を除く)通じて行うことでの体力・運動能力向上の成果は見られた。スポーツテストの結果を考察すると前年度と同じような結果となっていた。運動が苦手な生徒が増えている現状が見られる。 ・昨年度まで、自校で研究を行っていたが、外部講師を招いたことで、新しい視点を学ぶことが出来、授業に深みが出た。 ・食育について、教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、様々な立場の関りから食育を行うことができた。 ・キャリアパスポートに計画的に取り組むことで、スモールステップで目標設定ができています。1年生は将来を広く見て、3年生は目の前の進学にむけてなど、学年に合わせた進路学習ができた。 ・計画していた程度には郷土学習に取り組むことができた。一方で、教科担任制であることや教育課程の関係で、学校として体系的に取り組むことは十分にはできなかった。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続きこの計画を実施する。スポーツテストは引き続き実施したい。運動やスポーツが苦手な生徒が親しめるような授業内容や活動を検討する。 ・来年度も引き続き、岩井先生を招きながら、今年の成果と反省を活かし、生徒がいきいきとする道徳科を目指す。 ・来年度も味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れる。 ・今年度と同様に、キャリアパスポートに計画的に取り組むこと、学年に合わせた進路学習を行うことなど、今年度を踏襲した取り組みを進めていきたい。 ・次年度以降は、グローバルの視点を取り入れた郷土学習に学校として取り組んでいくことをめざして、総合的な学習の時間の現在の学習内容の検討や学校行事の精選を行うことが必要になると考えている。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-1 安心安全な学校づくりの推進)
P	重点目標	<p>「自信と意欲を持った集団、支え合える仲間づくり」～みんなが生き生きと元気な、活気ある学校に～</p> <p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ喜びを見つける生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しく、正義の通る集団 ・一人ひとりの良さが集団の中で発揮できる ○思いやるやさしさを身に付けた生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの個性を認め合い尊重しあえるような集団 ・他の人への気配りができる ○弾むたくましさにあふれる生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる ・行事等に全力で取り組むことができる <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携し、職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を行う。 ・村食物アレルギー対応委員会で食物アレルギーに関する課題に取り組む。 ・校内の破損個所を把握し、優先順位をつけて早期の原状復帰を目指す。 ・災害時において三助を担える生徒の育成を目指す為、防災アドバイザー等を効果的に活用する。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談(学期に1回)・環境整備・安全点検(学期に1回)・クリーンキャンペーン(12月実施)・登下校指導(学期に3回)・避難訓練(学期に1回)・薬物乱用・犯罪防止教室(7月実施)・生徒指導内容の校内研修・交通安全教室(4月実施)・校内生徒指導連絡会(週に1回)・支援教育推進委員会(月に1回)・千早赤阪村立小中学校生活指導連絡協議会(月に1回)・生徒会活動・委員会活動 ・隔月の安全点検の実施。教頭と校務員で修繕・部品発注、取り寄せ等の対応。学校で対応できない場合は、村教委への修繕依頼 ・避難訓練の際、防災や三助についてのDVD視聴と防災アドバイザーからその重要性の講評を受ける。 ・食物アレルギーを持つ生徒の実態把握に努めた。職員を対象とする食物アレルギーに関する研修を実施した。村食物アレルギー対応委員会で、食物アレルギーに関する課題に取り組んだ。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSWから生徒と対応するうえでアドバイスをいただき、それを活用することができた。 ・適応指導教室の存在が学校としては非常に助けられた。不登校生にとっての居場所が作れたことが一番大きい。 ・村小中生活指導連絡会での情報が、中学校でもきょうだい関係から対応できることが多かった。 ・適宜、教頭と校務員で修繕対応を行った。消火栓ランプの交換、体育館入口扉の鉄板取り付けなど困難な対応も多かったが、校務員とも連携して、修繕することができた。 ・桜の木の危険個所の確認も学校と業者で直接行った。 ・水道管の水漏れなど、学校で対応できないものは、村教委へ依頼して修繕してもらった。 ・村教委へ修繕依頼したが、カウンセリングルームのエアコン修理などなかなか対応してもらえないものもあったので、再度村教委への依頼も行った。 ・大阪府880万人訓練に合わせて、生徒がDVDを視聴した上で訓練を実施した。訓練後、防災士による生徒向けの講話もいただいた。生徒自身が自分でできる防災について考えることができた。 ・食物アレルギーの程度や適切な取り組みなど、学校の食物アレルギー対応の課題が明確になった。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSWとの連携を密に図りながら、各関係諸機関や小学校の先生も含め情報交換を行い対応していく。また、SCやSSWやCSWや社会福祉士が生徒指導の定例会や情報交換の場に参席してもらえるようになると、より幅を持った対応が行える。 ・くすのきルームとの連携は継続しながらも、くすのきルームと中学校の交流をより強めていく。具体には、中学校の教員がくすのきルームに顔を出すことから始め、窓口になれればよいと考えている。 ・小中加配の先生(理科・音楽)が、生徒指導に積極的に携わっていただけると、小中との情報交換が図りやすいケースもあり、中学校では見えない部分や背景などが分かり、解決の糸口に繋がるようなこともある。 ・登下校指導や地域の巡回の回数を増やして定期的実施する。 ・制服の移行期間に対する対応。・頭髮指導の難しさ。 ・予算の関係なのか、村教委へ依頼してもなかなか対応してもらえないことがある。生徒の学習環境を改善したり、安全確保のためであったりするので、早急に対応してもらえるように修繕費の増額も要望している。(しかし、R8度予算は、増額されていない) <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の老朽化に伴い、学校での修繕対応が増えている。村教育委員会から管理職の働き方改革も推進するよう言われているので、この視点も大切にして村の修繕に関わる予算を増額し、業者に対応してもらえるよう今後も要望し続けていかなければならない。 ・防災アドバイザーからの指導講評を参考に、学校施設・設備を再点検し、防災・三助についての指導内容を高める。 ・安全性を最優先に食物アレルギー対応を行う。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-2 学校および教職員の資質向上)
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上に向けて、昨年度の成果と反省を踏まえ授業力の向上のための研修を実施する。外部講師を招き、道徳の授業力の向上の研修を進める。 ・不祥事防止やハラスメント防止のため、資料を活用した校内研修を行う。 ・さまざまな課題に対し、外部機関や専門家等との組織連携による効果的な取り組みをおこなう。 ・外部からの学校支援で学習環境・生徒へのサポート体制が充実するよう、授業等への参画ご協力を依頼する機会を作り、働き方改革にもつなげていく。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の課題であった「基礎知識の定着」を学校全体の目標にし、具体的な指標として「チャレンジテストの知識・理解の得点率を上昇させることとした。 ・学校公開・研究授業を行い、千赤スタンダードを基に、生徒たちが「わかった」を実感している姿を柱に参加者全員で研究討議を行った。 ・定例の職員会議を利用して毎月、不祥事防止やハラスメント防止だけでなく服務全般に関する研修を実施した。他にも必要に応じ、都度実施した。 ・村教育委員会(教育課)以外に、こども課や健康課と連携してのケース会議や個別の教育相談を実施。支援教育に関しては村立両小学校との打合せ機会を増やすなど、連携をより発展させた。 ・JA大阪南女性部赤阪支部・給食センターとの「味噌づくり」は今年も実施、大阪観光局・村教委の支援による「マレーシアから訪日した子どもたちとの交流」、村人権擁護委員・住民課による「スマホ人権教室」は、今年度初めて実施することができた。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストの知識・理解の得点率が国語、数学、英語では2年生時点よりも上昇していた。社会ではわずかに、理科では大幅に下降していたが、思考・判断・表現等では両方とも上昇していた。これより、取り組みの一定の効果は表れていることがいえるが、教科によってより一層の知識の定着を意識した授業を展開していく必要がある。このために、学校全体で取り組む意識を高めていく必要がある。 ・報道されたり府から公表されたりしている事例も入れて研修を行い、注意喚起や意識付けはできた。 ・学年で多数ケース会議に出席したりするなど丁寧に組織連携を行えた部分もあったが、丁寧に対応する分、時間的な面については働き方改革には逆行する部分もあった。 ・初めての取り組みについては事前の準備や打合せ、当日の進行に不具合や負担が生じた部分もあったが、生徒にとっては新鮮であったり、印象に残ったり、今後への意欲につながったりした面が大きかった。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習を導入する予定があるため、より一層知識の定着を図る必要があると感じている。学校全体で取り組めるように教員の意識を高める取り組みも必要だと感じる。 ・状況に応じ、取り扱う内容を柔軟に変更していく部分は大事にしながら、年間通じ、計画的な研修計画を立てて実施する。 ・役員関係課とは、引き続き学校側のニーズについて理解を得ながら、学校だけでは対応しづらいところでサポートを得られるよう働きかけたい。 ・働き方改革にまでは至っていない。交流や連携の行事や授業をうまくコーディネートすることが課題で、村未来プラン推進により次年度中に設置される予定の学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の組織力を生かすなど、外部支援を得ながら進めていきたい。

4. 教育自己評価

【教職員による評価等】

肯定的回答率が高かったのは、「学校として、教育活動全般にわたり、生徒の意見や保護者の願いによく答えている。」「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」「生徒が望ましい勤労観・職業観を持ち、また興味・関心・適性に応じて進路選択ができる様、進路指導を行っている。」と、そして新項目の「本校教職員として、この職場で働けて良かったと思う。」であった。教職員それぞれの立場で、生徒のことを考えた対応を心がけ、保護者の願いについても理解しようとしている意識が表れているように感じる。

肯定的回答率が低かったのは、昨年度に続き「部活動の活性化に努力している。」「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。」であった。「生徒自身が考えを深められるように、思考力を重視した学習を行っている。」もまだ若干低めである。本校の部活動は小規模でありどのような形で継続できるのか、教職員の働き方改革もふまえた検討をしていく必要がある。教職員の育成や研鑽の機会はあるが、学校全体での機会は限られている。日々の授業や業務を通して行っていく研修(OJT)には可能性がある。

【保護者による評価】(学校教育アンケート結果より)

肯定的回答率が高かった項目は、「先生たちは、子どものことについて適切に保護者との相談に応じてくれる。」(86%)「先生たちは、家庭への連絡や保護者との連携を積極的に行っている。」(86%)「学校は子どもたちに将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」(82%)「子どもは、学校行事を楽しみにしている。」(81%)であった。保護者との連携については、生徒にとってより良い形になるよう引き続き努めていきたい。キャリア教育、そして学校行事への生徒の主体的な参画意識、意欲をこれからも大事にしていく。

肯定的回答率が低かったのは、「学校の施設・設備は、学習環境面において整っている。」(55%)「子どもは、授業がわかりやすいといっている。」(64%)「学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。」(68%)であった。学校環境については、教具の新調や修理も行っており、待望のトイレ改修も次年度に実現することになっている。予算の関係で時間がかかるものもあり、順次対応していくことになる。学力向上の取り組みは、今年度も府の事業を受けて進め、チャレンジテスト結果では成果も見られる。生徒にとって「わかる」手ごたえのある授業づくりには引き続き取り組んでいく。心を耕す教育を、学校目標や学年目標を立てて行っており、よりよい解決を図ろうとすることができる力、仲間を大切にし、ともに伸びようとする力の育成、差別を許さない集団作りを目指している。アンケートや教育相談の実施、ふだんからの会話を大事にしたい。

【生徒による評価】(学校教育アンケート結果より)

肯定的回答率が高かった項目は、「学校行事は楽しい。」(96%)「中学校へ行くのが楽しい。」(93%)「授業で、教え方に工夫をしている先生が多い。」(93%)「先生たちは、自分が努力したことを認めてくれる。」(91%)であった。3項目とも昨年度より肯定的回答が増えており、良い傾向である。学校生活の中で自尊感情や自己肯定感を高められるよう、今後もほめることを大切にしていく。

肯定的回答率が低かったのは、「破損箇所はすぐに修理され、快適に生活できる環境になっている。」(58%)「授業中、積極的に挙手したり、発言したりしている。」(62%)であった。修理は、校内で対応できるものについては、できるだけ早く行うようにしている。費用がかかるものは予算があっても手続き上、時間がかかることが多い。生徒会が設置している目安箱にあった意見で、環境整備が行われたケースもあった。

積極的に挙手や発言ができるかは、成長過程や性格が影響する面はあるが、安心して自分を表現できる学習集団づくりと、ペアで相談したり、班ごとに話し合ったりするなど発言しやすい場面を取り入れる授業づくりとを進めていく。

5. 学校関係者評価

学校評議員からの主な意見

[1学期]

◇学校だより、ホームページ、学校からのアプリ利用の連絡

- ・学校だよりで先生紹介があれば見たい。3月配布のPTA広報では例年、先生からのメッセージがある。
- ・ホームページは、更新がされていれば見る。保護者としては楽しみ。高校ではインスタを使っているケースもある。
- ・アプリの通知が分からなかった修学旅行の配信を見逃すことがあったが、別の保護者から教えてもらった。帰校時刻など連絡いただけるのはありがたい。学校からの配信に、修学旅行情報は「アプリをチェックしてください」と表記してもらえたらありがたい。

◇道徳教育

- ・子どもたちがどう考えられるかが大事。葛藤が成長につながる。モラルが守られたらルールはいらない。答えを出して終わり・・・でなくていい。

◇開かれた学校づくり

- ・学校側が「開かれた学校」を目指していくとき、支援・協力としてどこへどうつなげるかを悩んでいる。千台小には学校支援地域本部があり、赤阪小にはそういった組織はない。外部の人が学校に来られるのは刺激になる。

[2学期]

◇学校の様子

- ・先生方が平素より、生徒一人ひとりの個性や特性に向き合いながら、指導、支援されている様子が温かく感じる。小規模ゆえのメリットを充分生かした教育活動の展開を今後も大切にしていきたい。

◇「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」こと

- ・小学校から力を入れて学んでいる英語を実際に使い交流できた海外学生（マレーシア）との交流は、英語をさらに学びたいという意欲につながったり、今まであまり関心がなかった生徒にも関心をもついい機会だったのではないかと思う。
- ・ペア・グループでの取り組みをされているとの事。自ら考え、伝え、行動できる力をつける事は、将来にとっても役立つ。座学の授業ももちろん大切だとは思いますが、主体的な学習をたくさん取り入れてあげてほしいと思う。

◇「生徒が自分自身を見つめながら道徳的価値を高めていく授業づくりを進める」こと

- ・道徳の時間を通じて学ぶのは、決して正しいことを理解するだけでなく、考え、悩む、葛藤する時間を持つことだと思う。年間を通じて、様々な教材や資料、また日頃の生活と向き合うことによって、道徳的価値に出会う時間を大切に、生徒一人ひとりが人として成長する糧となってほしい。
- ・道徳教育に力を入れている印象を受けた。研修での学びを先生方が活かし、どのタイミングでどのように教材を扱うかなど、とてもよく考えて取り組まれている事により、「豊かな心を養う」授業が行われていると感じた。

◇「関係機関や地域との連携強化を模索し開かれた学校づくりをすすめる」こと

- ・地域の方を交流しながらのみそづくりや、自分たちの住んでいる村を美しくするクリーンキャンペーンなど、地域との連携を活かし、開かれた学校づくりを進めていると思う。
- ・生徒指導面については、村行政機関をはじめ専門関係者と積極的に連携がとれていると思う。今後も小規模自治体の良さを生かし、生徒の持つ課題等への取り組みを充実させることができるような連携システムを大切にしていきたい。

◇小中学校連携について

- ・本村は1中学校、2小学校。二つの小学校の児童が一つの中学校へ進学する状況から、教科指導面や生徒指導面でのより一層の小中連携の深まりが、村における義務教育活動の大きな特色になると思う。中学校から発信して積極的に連携を推進されるのが良いと考える。

◇体育大会について

- ・いつもながら一生懸命生徒たちの取り組む様子がわかって、迫力ある姿やまとまりのあるダンスなど、見応えの

ある体育大会である。ただ今年度は、お昼休憩の時間が長かったように思う。今後も生徒数が少なくなって競技時間が短くなり、午前の部が早く終わる事になるのではないかと。長休み等取ったり工夫して生徒たちになるべく負担のないようにすれば、昼休憩を挟む事なく終了する事はできると思う。時短開催に期待する。

◇進路懇談について

・今は学区制度もなくなり、その子に合った進路が多様化していると思う。他校の例だが、親や学校の先生がすすめたから・・・という理由で入学し、結局自分の意志で行った学校ではないという事で不登校になってしまったという話も聞いたことがある。その子の今後の事や志望している学校の様子などを考えて懇談をされていると思うが、難しい場合も、本人の志望を丁寧に受け止めてもらえたらと思う。

◇クラブ活動について

・クラブ活動については本当に先生方が熱心に指導してくださり、本当にありがたい。だんだん生徒の数も少なくなってきた、試合などに出る事が難しくなってくるクラブもあると思うが、クラブを励みに高校に行っても続ける子や成績を残す子もいる。できる限り先生方の負担が少ないように、学校での活動が続く事を期待する。

◇村教委「未来の学校・地域創生プラン」

・くすのきホールで行われた説明会に参加。土曜日の午前開催という事もあって保護者は少なく、少し残念に思った。せっかく素晴らしいプラン内容なので、機会があれば、参観の日や新入生説明会の時など、保護者が学校に来ている時に説明をしてくれればと思う。

◇PTA文化事業

・とても楽しい時間を過ごしている印象だった。出演者に卒業生がいるという事で、千赤中卒の人にこんな事をしている人がいるんだと生徒たちの興味・関心が高まり、素敵な時間を過ごせたのではないかとと思う。

[3学期]

◇学校アンケート結果から

- ・思った以上に学校を楽しんでいる子が多い。
- ・人によって、教育観がちがう。出てきた声に対して、学校は向き合うことが必要。保護者の勘違いはなくしたい。
- ・部活動の兼部は、地域のクラブに行っている子もいる。現在も、部によっては人数が少ないのでは。人数が少なく対外試合に出られないケースがある。文化部の種類がもっとあればいいと思う。月～金は陸上、土日は地域の野球クラブという生徒も以前はいた。試合が重なったときに困っている生徒もいた。先生方の負担はあると思うが、学校で部活動をしてもらえたらありがたい。夏休みも部活動バスを出してもらえるとありがたいが、人数が少ないし出してもらえない。・送迎ができないから、美術部に入るケースもある。
- ・「未来プラン」は、中学校として具体的にはどうなっていくか。
総合的な学習の時間での「探究」(自分でテーマを見つけて、課題を設定して探究過程を繰り返す)や、グローバルな視野をもち、表現力を高めることなど。
- ・これを機会にコミュニティスクールを立ち上げ、9年間で子どもを育てよう。中学は後ろに入試を抱えているが、小一 小一中での連携を進めていく。村の学校として、やっていきたいと思います。村を自慢していけるよう、大阪唯一の村が世界に発信していけるように。2月には、村教職員全員での研修もあった。
- ・食物アレルギー対応をしてもらえるのは、親として安心。エピペンの打ち方も先生方皆さんが知っているのはありがたい。1か月に1回打合せがあり、対応食を出してくれるのがありがたい。給食センターはすごいと思う。おいしい給食をもっとアピールしてはどうか。子どもは、毎日献立表をチェックしている。給食無償がありがたい
- ・先生方の道徳への意識が高まっているのではないかと。教え込みではない授業は、生徒が多感な時期に大切。生徒が悩んで終わるような授業がいい。人として選んでいくのが大事。生徒に考えるきっかけが大切。今後も道徳の授業を大事にしてほしい

6. 第三者評価

実施していない